Ν	o 80	01	レジメン名		D/	\ V-	-Fero	n(裏面	指示	あり	J)
病核	東 患者番号 氏名		癌種		ステ	ージ	PS		クール数		指示医師名
			年齢	2	身县	=	体重	-	体表面積		GFR(血清クレアチニン値)
			4-8	· F		Κ	cm	kg	本 衣面積	m²	ml/min
【近	適応がん種】	悪性黒色	 腫	DTIC/	ACN	U/VC	R CCr補正		T-Bil補正	【病状】	(mg/dl)
1 •	ダカルバジン	100~2	200 mg/BODY	DAY1~5			60~	-	-	2 病名	説明しているが、詳しい病
	ニドラン		100 mg/BODY				-	- -	- -	3 未告	ついては説明していない 知である
3.	オンコビン		1 mg/BODY				-	60~禁180	1.5~禁3.1	1 抗癌	剤による治療・予防と説明 剤とは言わず治療薬と説明
							WBC基	準 HGB基準	PLT基準	3 抗癌	剤とは言わず予防薬と説明 関しては説明していない
	1~42日(3 <i>4</i> 薬品1	~6週)1ク	ブール	規格	本数		- 薬品2(規格:	-	- 時間∙投与		平成20年7月1日 改訂
	グラニセト	-ロン「N	KJ1mg		1	本	★生食5		<u>15分で</u>		五
2	ダカルバ	ジン()mg	100mg		本	★生食5	コン終了後~ 高(<u>遮光)</u>			
3	ニドラン()mg	50mg		本	★5%ブ	・ ・ ・ ウ糖50m		バジ:	ン終了後~
									<u>15分で</u>	点流	<u> </u>
4	オンコビン	<i>,</i> ()mg	1mg		*	★生食5	Oml	ニドラン	終了	?後∼
)	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		/···s	6		VT*	<u> </u>	O2	<u>15分で</u>	点流	鱼
⑤	生食50m	nL			1	本			①ダカル ④オン: 全開で	コビ:	ジンあるいは レ終 <u>了後〜</u>
【걬	薬剤部注意 事	耳]						・・・▲遮光バッ	ック添付!!		
【看		項】〇ダス	カルバジン、ニド [・]	ランは遮光技	殳与([血管痛	発症時は点	滴ルートも遮ま	光)		
★ 月	35万円/21 ≣	~42日1	クール 指示	うら面オー	ダー	必要	★1時 指示图	時間/30分 医 受け 監査	払い 払監	調製	調監 前確 実施

★35万	35万円/21~42日1クール うら面オーダー必要 ★1時間/30分							200807更新						
月日			指示	うら囲み	プラー必安	指示医	受け	監査	払い	払監	調製	調監	前確	実施
			10~(5		DAY1									
			12	⑤	DAY2									
			12	⑤	DAY3									
			12	⑤	DAY4									
			12	⑤	DAY5									

	医師指示表	4	
月日	指 示 事 項	指示者	者名 受領者名
	DAY1~10		
	①ボルタレン1回1錠(フエロン局注30分前に服用) 10回分		
	(ただし土曜日、日曜日は休み)		
	②フエロン(300万単位)1本+1%ロカイン(1mL)1本 (医師 局注) 10日間		
	(ただし土曜日、日曜日は休み)		
	【悪心・嘔吐時】		,
	プリンペラン1本 静注		

【備考】NO801 DAVーFeron チェックリスト
【1•適応】
DTIC、IFN-β・・・・・適応症あり ACNU、VCR・・・・・・適応症なし
【2•治療成績】
担癌患者に対する奏効率20%、アジュバントとしてⅢ期の5年生存率約65%とされている
【3·特徵】
本邦のメラノーマのアジュバントとして汎用されている。通常術後2週間より開始。
アジュバントとしての適応コース数はⅡAおよびⅡB期は2~3コース、ⅡC~ⅢC期は5~6コース施行が推奨
【4·投与前】
□ 肝機能・・・・・・・・・・・VCR(GOT60、T-Bil 1.5以下の時減量必要)・DTICおよびACNU(指標はないが考慮必要)
□ 腎機能······DTIC(Ccr60以下の場合減量必要)·ACNU(指標はないが考慮必要)
□ 妊婦、授乳婦・・・・・・・・DTIC <u>→禁忌・</u> ACNUおよびVCR(催奇形性、授乳移行)
□ 若年者······ACNUおよびDTIC(2次性白血病 平均53ヶ月後)·DTICおよびACNUおよびVCR(精腺に対する影響)
□ 神経・筋疾患の既往・・・・VCR(神経・筋障害強く現れる・脱髄性シャルコー・マリー・トゥース病の可能性のある患者→禁忌)
□ IHDの既往・・・・・・VCR(IHD症状が強く現れる)
□ 相互作用・・・・・・・・イトリゾールなどアゾール系抗真菌剤、アレビアチン(VCR)
【5·投与中】
□ 週1回 血算 (Nadir時は適宜対応)
Nadirの詳細は不明//ACNU単剤は4~6週、DTIC単剤はWBC低下21~25日、PLT低下16日後(21st USPDIより)
□ 週1回 肝機能検査
DTIC・・・血管障害が主で、急性のBuddーChiari症候群とVOD(肝静脈閉塞性疾患)さらに重複した像を示し致命的な場合もある
□ コース前 腎機能検査
□ 肺機能検査・・定期的な聴診および月1回胸部レントゲン
ACNU·VCR····間質性肺炎 頻度不明
【6-副作用】
WBC低下41%、PLT低下20%、RBC低下15%、肝酵素上昇31%、悪心・嘔吐20%、発熱18%などとされている
□ WBC低下・・・・1000以下または、発熱を伴った2000以下でグラン投与
(前治療でグラン使用歴のある場合は2000以下の時点で使用可能)
□ 感染時・・・・・・抗緑膿菌剤を含む抗生剤投与(例 PIPC+TOBなど)+ポピヨドンG+ファンギゾンシロップ内服など考慮
□ HGB低下・・・・ 通常6~7g/dlで輸血考慮
□ PLT低下・・・・・通常2万以下でPLT輸血考慮(粘膜障害など出血のリスクがある場合5万程度から考慮)
□ 血管痛・・・・・・・・DTIC(薬剤本体およびルート遮光→投与中冷やす、投与後暖める→PSL25~50mg程度の前投与)
□ 末梢神経・筋障害・VCR(発症時メチコバールなど投与、重症時は末梢神経伝達速度検査・握力測定・振動覚を含む知覚検査)
□ 便秘・イレウス・・・・VCR(カマ、ラキソベロンなど投与、前クールでSF発症時は予め投与する)